

(様式3号)

学 位 論 文 の 要 旨

氏名 兼平 朋美

〔題名〕

「地域精神保健福祉活動における保健師の家庭訪問スキル」の
構造化と効果的な現任教育

〔要旨〕

本研究は「地域保健福祉活動における保健師の家庭訪問スキル」（以下スキル）の構造を明らかにし、その結果を基にスキルを向上させる現任教育の具体的な方法を検討し実施し、評価することを目的とした。

研究方法はまず、全国の都道府県保健所の精神保健担当保健師を対象とした無記名自記式質問紙調査を実施した。その結果から探索的因子分析を行なった。家庭訪問スキルは【ニーズを見極める】【家族関係をとらえる】【家庭訪問を管理する】【保健医療福祉に関する情報を把握する】【対象者との関係性を高める】【危機的状況に対応する】の6因子36下位尺度項目で構成されていることが明らかとなった。さらにスキルの習得状況は業務経験年数が上がるにつれ、因子別の習得得点は上昇していたことから、スキルの習得には業務経験が重要であることが示唆された。研究1.2から効果的な現任教育を検討した。スキルを習得するには事例検討会で用いる「ケースシート」に着目し、スキルを意識できる「事例検討用のシート」を考案した。さらに「ケースシート」を用いて事例検討会を実施し、その効果を評価した。合計評価点は全ての事例検討会で有意に上昇しており ($p < 0.05$)、6因子のうち【ニーズを見極める】【家族関係をとらえる】は効果が認められた。その他の4因子においても有意差はみられなかったものの、下位尺度評価点は全ての項目で上昇傾向がみられた。以上のことから家庭訪問スキルを向上させる現任教育として、「ケースシート」を用いた事例検討が効果的であることが示唆された。具体的な方法としては、1事例につき事例検討会を2回組み合わせ、2回目は経過報告を含めて検討する方法が有効であることが認められた。また、この研究結果の普及で、家庭訪問スキルの向上が期待できると考えられた。

作成要領

1. 要旨は、800字以内で、1枚でまとめること。
2. 題名が欧文の場合は、和訳を（）書きで記載すること。

学位論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1489 号	氏 名	兼平 朋美
論文審査担当者	主査教授	堤 雅恵	
	副査教授	野垣 宏	
	副査教授	守田 孝恵	
学位論文題目名 (題目名が英文の場合は、行を変えて和訳を括弧書きで記載する.)			
地域精神保健福祉活動における保健師の家庭訪問スキルの構造化と効果的な現任教育			
学位論文の関連論文題目名 (題目名が英文の場合は、行を変えて和訳を括弧書きで記載する.)			
精神保健活動における保健師の家庭訪問スキルを向上させる「ケースシート」を用いた事例検討の効果			
掲載雑誌名 山口医学 第66巻 第2号 (2017年5月 掲載(掲載予定))			
(論文審査の要旨)			
<p>学位論文は、都道府県保健所保健師が行っている家庭訪問のスキルについて、因子分析により構造化を試みた研究と、その結果をもとに開発した「ケースシート」を用いた事例検討会の効果を検討した研究とで構成されていた。</p> <p>家庭訪問スキルは【ニーズを見極める】【家族関係をとらえる】【家庭訪問を管理する】【保健医療福祉に関する情報を把握する】【対象者との関係性を高める】【危機的状況に対応する】の6因子36項目で構成されており、「ケースシート」を用いた事例検討会の実施による総スキル得点の有意な向上が示された。因子別では、【ニーズを見極める】【家族関係をとらえる】のスキル得点が有意に向上し、また、有意差は認められないものの、他の4因子にもスキル得点の上昇傾向がみられた。対象者の総スキル得点は、全国の保健所保健師の平均を上回っていたことから、開発された「ケースシート」を用いた事例検討会は家庭訪問スキルを向上させる効果を有すると考えられることが論述された。</p> <p>スキルの構造の明確化の試みが因子分析にとどまっていることや、従来法との比較が行われていないことについては、より高い科学性が望まれる論文であった。また、対象者それぞれの主観的評価によってスキル得点を導出した点は本研究の限界であるといえた。しかしながら、最終提出された論文で、口頭試問で指摘したことが適切に修正されていることが確認され、また、本研究で得られた知見がすでに現場で活用され有用とされていることは評価できる。以上から、審査委員会は、兼平氏から申請のあった学位論文を、博士(保健学)を授与できるものと認め、合格とする。</p>			
以上			

備考 審査の要旨は800字以内とすること。